



## 今月の話題

- 東北・新潟研修旅行レポート
- 研修旅行の写真
- 防火訓練

## 研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## 東北・新潟研修旅行レポート

### (1) Mr. Ibrahim Gamal Ibrahim ZAHRA (エジプト、地震学コース)



「順応か消滅か。今も昔も自然界は変え難く厳しい」

(H. G. ウェールズ)

これが宮城と新潟での研修旅行の感想です。5日間の研修で私たちは、日本の人々がどのように災害と共存する準備をしているか、また、厳しい環境とうまく付き合っていくために計画を立てているかを学ぶことができました。

宮城では、2011年の東北地方太平洋沖地震と津波の被災地を訪問しました。壊滅的な大打撃であったにも関わらず、各市町村の復興、社会の回復力は見事なものです。

2004年の新潟県中越地震でひどい被害を受けた新潟での短期滞在中では、山古志を訪れました。美しい自然に感動し、また、地震後の地滑りがもたらした被害について学びました。震央に近い川口町の被害についても学び、人々がどのように協力し合い、甚大な被害を乗り越えていったかを学ぶことが非常に重要であると分かりました。

最も大切な教訓は、協調の重要性と、必要に応じて他者の助けを受け入れること、さらには、出来事の記憶を次の世代へ受け継ぐことです。そこから学び備えることができるからです。この経験を自国に伝え、教訓とし、そして私たちも日本のレジリエンスのレベルに達せるよう、願っています。

### (2) Mr. Bhenz RODRIGUEZ (フィリピン、津波防災コース)



建築研究所(BRI)国際地震工学センター(IISEE)の案内のもと、2017年11月6日から10日の5日間、研修旅行として2011年の東北地方太平洋沖地震の被災地を訪問しました。研修生は地震学および地震工学と、私が属する津波防災の2グループに分かれ、私たちは、仙台、石巻、気仙沼、陸前高田、大船渡、釜石、宮古といった沿岸地域へ訪れることが

できました。

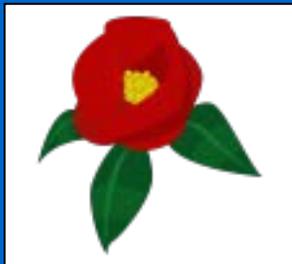
この訪問で、津波ハザードが、国においてさらに重要視されるべきであると気付かされました。各地で津波の水位標や痕跡を見て、「同じことが自国で起こったら景観はどうなってしまうのだろう？」と考えました。

## 論文募集

IISEE Bulletinは、現地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



政府が適切に対策を講じなければ、さらに壊滅的な被害につながりかねません。

研修旅行のおかげで、フィリピンでの自分の仕事の奥深さを理解することができました。防波堤や堤防の建設だけでなく、過去の津波災害からの教訓も、ある地域ではこのような悲劇的な出来事への粘り強い対応に役立つのです。

この脅威から日本がどのように立ち上がり、復興したかに私はとても感銘を受けました。他の津波多発国は、日本がいかにして大津波のあとの生活に向き合ってきたかを学ぶことができます。

### (3) Ms. Rizalyn Centino ILUMIN (フィリピン、地震工学コース)



充実した5日間の東北と新潟への研修旅行は私たちにたくさんさんの情報を与えてくれました。この研修を支えてくださった皆さんに感謝いたします。

この学習旅行は2004年の新潟県中越地震と2011年の東日本大震災の二つに焦点が置かれていました。これらの大災害で得た辛い教訓は日本を防災対策において世界のリーダーにしました。予算総額32兆円の再生10ケ年計画が日本政府の誠意と強力な政策決定を示しています。

仮設住宅に住む被災者を納得させ、よりスムーズに移転させるためには、単に移り住める土地と住宅を供給するだけではなく、病院、学校、娯楽施設などの生活拠点を共に提供しなければならないということを学びました。

また、寺院等を訪れた経験は日本文化を感じ、理解するために大いに役立ちました。

この研修で学んだことを糧に私たちは災害が起こる前により良い建築物を造っていかねばならないと思いました。

### (4) Mr. Jorge Alberto Stanley FLORES GONZALEZ (エルサルバドル、地震工学コース)



日本は世界の中でも数多くの地震の経験を持ち、防災対策も万全の国です。しかし、2011年3月11日に起きた東日本大震災はあまりにも強力で日本人がそれまでに培ってきた知識等を超え、地震に伴った津波は大きな爪痕を残しました。その時日本人は一致団結し、協力し合い、励ましあい、“絶対あきらめない”と自分たちに言い続けました。

研修旅行中、津波で大きな被害を受けた三陸海岸の当時の悲惨な状況をビデオで観た後、実際にその現場に出向きました。そこでは、当時何が起こったかを知っただけではなく、日本人が持つ協力しあえるという能力で自分たちの基盤を驚くような早さで再生していったということです。

また、この研修旅行で都市計画の重要性を認識することができました。なぜなら防災という視点から良い設計は多くの損失を予防できるからです。

もう一つの着目すべき点は、被災地の人々は弛まず新たな予防策を模索し住民に防災対策を普及させ、来る災害により強く対処し大災害を防げるよう努力をしていることです。

## 研修旅行の写真



楽しむのは今です。



## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様のご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp  
<http://iisee.kenken.go.jp>

## 防火訓練

国際地震工学センター スタッフ 青木莉穂

11月21日、建築研究所では、所内で火災が発生したことを想定した防火訓練が実施されました。館内放送や避難誘導員の指示に従い所定の場所まで避難した後は、実際の消火器を使った消火訓練が行われ、職員の中から選ばれた代表者や、国際地震工学センターの研修生が数名参加しました。



消火訓練の様子

バックナンバーは  
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>